

風水害

風水害について

洪水が心配される台風や集中豪雨のとき、どんなことに注意して、
どんな準備をすればよいのでしょうか？
みなさんの家庭で洪水・水害対策のポイントを確認しましょう。

雨の強さと降り方 (1時間降雨量)

雨の強さ	1時間降雨量	特徴
やや強い雨	10~20mm未滿	話し声が聞こえにくくなります。長雨になりそうなら注意が必要です。
強い雨	20~30mm未滿	どしゃ降りの雨。傘をさしていても濡れてしまうほどの雨です。小さな川なら水があふれ出したり、がけ崩れの心配もあります。
激しい雨	30~50mm未滿	山崩れ、がけ崩れが起こりやすくなります。道路の規制も行われます。避難の準備をしましょう。
非常に激しい雨	50~80mm未滿	滝のように雨が降り、あたりが水しぶきで白っぽくなります。家の中で寝ている人の半分くらいが気づくほどの激しい雨です。
猛烈な雨	80mm以上	息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じます。大雨による災害が起こる恐れがあります。厳重な注意が必要です。

台風がもたらす雨は大量の雨が短期間(数時間から数日)のうちに広い範囲に降るため、
河川が増水したり堤防が決壊したりして水害(浸水や洪水)が起こる危険性が高いので注意が必要です。

福岡管区気象台が発表する大雨に関する予報と発表基準

「大雨注意報」は災害が起きるおそれがある場合に発令され、「大雨警報」は重大な災害の起こるおそれのある場合に発令されます。

大雨注意報 1時間雨量(平地)・・・40mm 1時間雨量(平地以外)・・・60mm 土砂雨量指数……………104	大雨警報 1時間雨量(平地)・・・70mm 1時間雨量(平地以外)・・・90mm 土砂雨量指数……………130	特別警報(大雨) 台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想され、若しくは、数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想される場合
--	---	---

※土壌雨量指数とは、降雨による土砂災害発生の危険性を示す指標で土壌に貯まっている雨水の量を示す指標です。

台風の危険性(風の強さと吹き方) 台風の大きさは、「強風域(風速15m/秒以上)の半径」、強さは、「最大風速」で表されます。大きな台風は、広い範囲に影響がおよび、強い台風では中心付近が大きな影響を受けます。

風の強さ(予報用語)	平均風速(m/秒)	およその時速	速さの目安	人への影響	屋外・樹木の様子	走行中の車	建造物	およその瞬間風速(m/秒)	
やや強い風	10以上 15未滿	~50km	一般道路の自動車	風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。	樹木全体が揺れ始める。電線が揺れ始める。	道路の吹流しの角度が水平になり、高速運転中では横風に流される感覚を受ける。	樋(とい)が揺れ始める。	20	
強い風	15以上 20未滿	~70km	高速道路の自動車	風に向かって歩けなくなり、転倒する人も出る。高所での作業はきわめて危険。	電線が鳴り始める。看板やトタン板が外れ始める。	高速運転中では、横風に流される感覚が大きくなる。	屋根瓦・屋根葺材がはがれるものがある。雨戸やシャッターが揺れる。		
非常に強い風	20以上 25未滿	~90km		特急電車	何かにつかまっていなくて立ってられない。飛来物によって負傷するおそれがある。	細い木の幹が折れたり、根の張っていない木が倒れ始める。看板が落下・飛散する。道路標識が傾く。	通常ので速で運転するのが困難になる。	屋根瓦・屋根葺材が飛散するものがある。固定されていないプレハブ小屋が移動、転倒する。ビニールハウスのフィルム(被覆材)が広範囲に破れる。	30
	25以上 30未滿	~110km	固定の不十分な金属屋根の葺材がめくられる。養生の不十分な仮設足場が崩落する。						
猛烈な風	30以上 35未滿	~125km	特急電車	屋外での行動は極めて危険。	多くの樹木が倒れる。電柱や街灯で倒れるものがある。ブロック壁で倒壊するものがある。	走行中のトラックが横転する。	外装材が広範囲にわたって飛散し、下地材が露出するものがある。住家で倒壊するものがある。鉄骨構造物で変形するものがある。	50	
	35以上 40未滿	~140km							60
	40以上	140km~							